

勇気と自信をもって確実な前進目指す 政策実現活動の推進など活動方針を確認

JAMシニアクラブは、9月5日JAM本部で役員と代議員49名が出席し第10回定期総会を開催。2019年度活動方針と予算、田中ひさや政策実現活動の推進に関する件などを審議、組織拡大、地域活動への参加と地域包括ケアへの対応、カジノ誘致反対運動など5人の方から意見要望を受けすべての議案を満場一致で決定した。

総会は那珂副会長の開会挨拶、議長団に小川秀樹（東京）・伊藤純夫（京都）代議員を選出した。冒頭、シニアクラブ大山会長は挨拶で、会員減少問題にふれ「現役との連携懇談会は定着した。懇談会の中身を充実させる活動を進めていくことが会員拡大に繋がる」と組織拡大と政策実現活動を同時に取り組む今年はまだ以上で以上の連携を訴え、「JAMと基幹労連が協力・連携して田中を国会に送りだすことが安倍政権をストップさせることに繋がる」と激を飛ばした。

来賓のJAM安河内会長は「今年の春闘も中小が大手の賃金改善額を超えた。それは個別賃金要求で粘り強く交渉した結果だ」と胸を張り、そのうえで「田中ひさやは国民民主党から立候補することを確認した。基幹労連とJAMがタッグを組み田中を国会に送りJAM運動を国会に反映していく。力強いご支援をお願いします」と挨拶した。退職者連合人見会長も「当選を勝ち取り退職者の要求を実現させる力になって頂きたい」と続き、基幹労連シニア宮園会長は「JAMと基幹労連の組織力量が問われる選挙。中央・地方で基幹労連自らの候補者として取り組む」との姿勢を強調した。

方針討議では現役はシニアからの組織拡大要請を重荷に感じ後ろ向きになっている事例や高齢者活動は現役にとっても必要だとの認識が薄くなっているのでは、大手労組に協力してもらうにはどうするかなど苦悩する組織拡大に対し、JAMにとってメリットのある組織である認識をもってもらうなど結果に繋がるよう本部・地方で粘り強く要請していく。また地域丸投げの包括ケアシステムの問題やカジノ誘致反対運動などの要望意見がだされ、本部答弁後活動方針、予算、政策実現活動の推進などすべての議案を満場一致で承認し大山会長の団結頑張ろうで閉会した。